

・三位一体後第五主日

泉のほとり

今月の詩編「第二八編」

嘆き祈るわたしの声を聞いてください。

至聖所に向かって手を上げ

あなたに救いを求めて叫びます。

ダビデの子イエス

主イエスは「ダビデの子」と呼ばれました。それは神さまとダビデとの契約によって来られた方だからです。ダビデがまだ少年時代に「わたしは、エツサイの子ダビデを見出した。彼はわたしの心になつた者で、わたしが望むことをすべて成し遂げる」と言われました。そのダビデを選び、イスラエルの王とし、王国をとこしえにまで確立させる「ダビデの子」が約束として与えられました。御心にならざる言われたそのようなダビデは生涯、何一つ悪いことを行わない、正しい人であつたのかというところではありません。自分の部下の妻との間に子供ができたために、行けば必ず死ぬほどの激しい戦場へその部下を送り、殺し、その妻を自分のものにしてしまった。人はそのようなダビデがどうして「御心にならざる人」と神さまに認められたのか、ときえ思ふのです。しかしそのような人間による判断を捨てなければ見えてこない真実があることを思ふのです。

人はよいことをしている時より、過ちを犯した時の態度、姿勢に、その人の普段の営みでの誠実さがより鮮明に表されるのではないのでしょうか。すなわち、過ちを犯した時のその人の心のあり方です。人の心と誓は素直に自分の非を認めず、言い訳、責任転嫁、あれこれ理由をつけて責任回避するのです。

ダビデは自分の罪、悪事から目をそらすことなく、逃げずに、まっすぐに向き合った人です。ダビデが犯したことは律法によりますと死に値しますが、神さまの憐れみは律法を超えてダビデに注がれました。それほどダビデ自身の誠実さ、真実が表れたの

だと思いません。しかし罪は赦され、神さまから切り離されることは免れましたが、彼自身が行った悪事に対する神さまからの厳しい報いはありました。ダビデはそれを当然の報いとして受けた人です。そのような罪と悪に対する御前でのダビデの直ぐな、誠実な心は、彼が羊飼いの時のみならず、王としての営み、すべての行いに現れていたのだと思います。それゆえ、だからでしょうか、神さまはダビデの死後「ダビデはわたしの命令を守り、心を尽くしてわたしに従い、ただ、わたしの日にならざることをだけを行った」(列王記上14章8節)と言われています。

イスラエルの歴史上、ダビデのような人はほとんどいませんでした。むしろその歴書を一言で表しますと、罪を認めない、自分たちの不信仰を認めない歴史でした。それどころか、それに気づきもしない歴史でした。そのため神さまはイスラエルの罫りの国々を強くし、イスラエルに苦しみを与えられました。しかしそれでも気づきません。かえって自分の国には王がいなくてもいつも外敵に苦しめられるのだとつぶやくのです。それがイスラエルに王が立てられるようになった経緯です。イエスさまが来られた当時も、同じです。ダビデの子としてこられる王、がいないから、ローマに苦しめられている、ダビデの子が現れるとその悪の力から救われると思つていたので、誰一人、御心にならざる者として生きようと自分自身の罪と悪に誠実に向き合ふ人はいませんでした。

ダビデの子イエスは、人を罪から救うために来てくださいました。ダビデの心をもつて近づく者たちの救い主として来られたお方です。



コーヒーカップ上の祈り

主よ、わたしはここで

正しいことをしようとしています。

わたしはここで、

正しいと信じることのために

立ち上がっているのです。

しかし主よ、

わたしは告白しなければなりません。

わたしは弱いのです。

わたしは倒れそうです。

勇気を失いそうです。

そして、恐れています。

だがわたしは人々に、

こんなわたしを見せたくありません。

なぜなら、

もし彼らが、わたしの弱い

勇気を失っている姿を見るなら、

彼らも弱くなってしまう。

人々はわたしに、指導力を期待しています。
だからもしわたしが

方と勇気を失ったままで

彼らの前に立つなら、

彼らも倒れてしまいます。

わたしはもう力の限界にきています。

もう何も残っていません。

もう、ひとりです。

立ち向かうことはできません。

平野克己 「祈りのともしび」より

マーチン・ルーサー・キングの祈り

今日のお知らせ

○第一礼拝後、教会学校と並行してロビーでのコーヒーサービスがあります。回舎二階のリズム室ではどのような会が開かれ、礼拝で受けた恵みの分かち合いをします。

○第二礼拝後、ホールで讃美と報告の会をします。お昼はお弁当です。

○七月二九日に行われる教会研修会の中込書と資料が、先週、伏差しに配られました。よく読んで、参加の中込をしてください。

○午後一時半から教会員懇談会を行います。初めに、二九日に行われる教会研修会についての説明と質疑を行い、続いてバザーについての相談を店ごとに行います。教員員はご参加ください。

○三日（火）午後七時から、来年度のコイノニアキャンプの第二回準備会があります。準備委員はご参加ください。

○禁園香音楽伝道師は、本日、東京鶴の本教会の主日礼拝で奉仕をします。お祈りください。

四国だより

吉村和雄先生

大自然の中にある新緑の美しきに見とれて
しまいます。二三種類のバラ達が咲き続けて
おり、毎朝ガーデンセラピーの役目を果たし
てくれており感謝です。

謹んで四月の教会報告書をお送り致します。
四月八日(日)キリスト品川教会の按手式には
主のご栄光溢れる御業の中へのお招きを賜り
誠に有難うございました。按手式礼拝は天に
おける大いなる喜びの日、心よりおよろこび
を申し上げます。

主から賜る天的な喜びが人々の心の内に広
がり、心の外に溢れ出して主の平安が品川教
会全体と人々をやさしく包みこんでいる・・・
と実感いたしました。

初めて菊池美穂子先生におめにかかりご挨拶
をさせていただきました。お日にかかる前
にはイースターカードをいただきたいでありまし
たので、ご挨拶の時に喜びが二倍となり、
とてもうれしく思いました。

主の御業を予感しながらの信仰生活に全ての
の人々が良き希望が与えられてゆく未来への
喜びの日々の訪れの日であることを確信いた
しました。

お懐かしい皆様、心のこもったおやさしい
ご挨拶をいただき、今も胸にほのぼのとした
喜びが溢れております。また教会学校の時に
は幼かった姉妹お二人が満面の笑みで前に立つ
て、「田端先生！」と現れて下さった時はそ
のご成長ぶりに？誰かと思いましたが、懐か
しい思い出の中からお名前を及びする事が出
来ました。キッチンでお父様をお呼びする事
が出来ました。キッチンでお父様にお会いし
ますと娘たちはこの時間どこかに出かけるは
ずでしたが、先生にご挨拶したいからと来て
いますとの事でした。さわやかな感動で喜び
が溢れました。

これらの思い出はいつまでも主に在りて決
して忘れる事はありません。幸せな時間を感じ
ました。

いつも私達を覚えて下さり、尊いとりなし
のお祈りの花束を届けて下さる品川教会の古
村先生、教会員の皆様に心よりうれしく感謝
を申し上げます。

二〇一八年五月九日

田端良恵

聖書の会へどうぞ

7月4日(水)

●朝の聖書の会(10時)

「試みに」

使徒19章11〜20節

黄允湜 副牧師

●聖書の夕べ(19時)

「王の王イエス」

ルカ23章1〜12節

吉村和雄 牧師

次週礼拝

●第1礼拝(午前9時30分)

讃美歌讃21 205番 小さい羊が

説教 人が見えます」

聖書 マルコ8章22〜26節

説教者 黄允湜 副牧師

●第2礼拝(午前11時10分)

讃美歌7番 355番

詩篇第28編

説教 「野の花を見なさい」

聖書 マタイ6章25〜34節

説教者 吉村和雄 牧師



第一礼拝 (午前9時30分)

讃美歌 讃21 205番
小さい羊が

説教 「自分の行いに頼らず」

聖書 ガラテヤ5章2節～12節(新約P349)

司式 山名隆史 兄

説教者・聖餐司式 吉村和雄 牧師

前奏曲「いと高きにある神にのみ栄光あれ」J.バハ

○讃美歌21 205番

1. 今日のはひかりが つくられた日よ
やみの中にも 「ひかりかがやけ」
2. 今日のはせいなる あんそくの日よ
つかれた心 新たにされる
3. 今日のはへいわが みちあふれる日
あらそいさわぐ 波もしずまる
4. 今日のはみ神に ともにいのる日
心をたかく み前に上げよう
5. 今日のは主イエスの よみがえりの日
われらを生かす 愛をたたえよ アーメン

○サクソフォンによる讃美
「讃美歌166番」

○小さい羊が

1. 小さい羊が家をはなれ
ある日とおくへあそびにいき
花さく野はらのおもしろさ
かえる道さえ忘れまして
2. けれどもやがて夜になると
あたりはくらくさびしくなり
うちがこいしく羊はいま
声もかなしくなっています
3. なさけの深い羊飼いは
この子羊のあとをたずね
遠くの山やま谷そこまで
まいごの羊をさがしました
4. とうとうやさしい羊飼いは
まいごの羊を見つけました
だかれて帰る この羊は
喜ばしさにおどりました アーメン

聖餐曲「泉のごとく」E.グランドス

後奏曲「グランドコワイア」T.デュボア

第二礼拝 (午前11時10分)

讃美歌 71番 252番

詩篇 第28編(旧約P858)

説教 「罪を赦す方を前にして」

聖書 マタイ9章1節～8節(新約P15)

司式 山名隆史 兄 聖餐司式 吉村和雄 牧師

説教者 黄允湜 副牧師

前奏曲「カンタービレ」C.フランツ

○讃美歌 71番

○サクソフォンによる讃美
「讃美歌166番」

○聖歌隊による讃美

「主にありてぞ」 讃美歌361番
主にありてぞ われは生くる
われ主に主われに ありてやすし
主にありてぞ われ死なばや
主にある死こそは いのちなれば
生くるうれし 死ぬるもよし
主にあるわが身の さちはひとし
われ主に主は われにありて
天こそとこよの わが家となれ アーメン

○讃美歌 252番

聖餐曲「天に在します我らの父よ」R.H.ハッ

後奏曲「グランドコワイア」T.デュボア